

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

2023年 10月 31日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 大学院文学研究科

職名・学年 博士後期課程3年

氏 名 MENACHE DARIO ANDRES

|            |   |           |         |  |
|------------|---|-----------|---------|--|
| 助成の種類      | 令和5年度・国際研究集会発表助成  |           |         |  |
| 研究集会名      | EAJS 2023: 第17回ヨーロッパ日本研究協会国際会議  |           |         |  |
| 発表形式       | <input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他                                 |           |         |  |
| 発表題目       | Between the Boat and the Cross : A comparative study of the Western account of the hodaraku and the Japanese depiction of Christian martyrdom in early modern Japan |           |         |  |
| 開催場所       | ベルギー、ヘント市、ヘント大学   |           |         |  |
| 渡航期間       | 2023年 8月 17日 ~ 2023年 8月 20日   |           |         |  |
| 成果の概要      | タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )                                    |           |         |  |
| 会計報告       | 交付を受けた助成金額  | 350,000 円 |         |  |
|            | 使用した助成金額  | 350,000 円 |         |  |
|            | 返納すべき助成金額   | 0 円       |         |  |
|            | 助成金の使途内訳<br>(差し支えなければ要した経費総額をご記入ください)   | 費 目       | 金 額 (円) |  |
|            |   | 航空運賃      | 378,230 |  |
|            |   |           |         |  |
|            |   |           |         |  |
|            | 以上に助成金を充当   |           |         |  |
| 当財団の助成について | (今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回の助成がなければ、海外での発表ができなかったはずですが、わたしの研究にとってはとても大事な経験でした。これから、日本でその成果を活かしていきたいと思っております。心より感謝しております。                  |           |         |  |

## 成果の概要／アンドレス・メナチェ

今回のヨーロッパ日本研究協会シンポジウム（以下 EAJJS）は17日から21日にかけて朝から夕方までヘント大学（ベルギー）の文学部のキャンパスで行われました。参加者は大きく個人発表と団体発表という大きな2つのグループに別れました。そのなかで、また研究テーマによって分かれました。わたしは「宗教」のグループでした。初日の午前中から発表することになりました。参加方法はハイブリッドでしたが、わたしの発表に参加した研究者はほぼ対面で参加していました。わたしの研究テーマは「Between the Boat and the Cross: A comparative study of the Western account of the hodaraku and the Japanese depiction of Christian martyrdom in early modern Japan」でした。発表時間として20分与えられました。そして、質疑応答の時間は15分ぐらいでした。英語で発表を行いましたので、第一史料をすべてポルトガル語や日本語から英語に訳しました。西洋側と日本側に基づいて比較的研究を行いました、その結論についても発表しました。参加者はジャパン・スタディーズの専門家でありつつ、歴史、人類学や哲学という色々な分野の研究者達でしたので、様々の観点からの貴重なご指摘をいただきました。また、参加者のなかにわたしが参考にしたコロンビア大学の先生がいらっしゃいましたが、わたしは彼と発表の内容について有意義な議論をすることができたおかげで、自分の論文について気づきが多かったです。発表後にこの先生と連絡先を交換し、論文ができ次第メールで送付するように依頼されました。パネルのオーガナイザーやコロンビア大学の先生から良い評価をいただきました。

大勢の参加者のため、同じ時間にいくつかのパネルの発表が行われていたため、参加できなかった発表がいくつかありました。それにもかかわらず、自分のテーマと関係がある発表には参加できました。特に、南蛮貿易、キリシタン版と動物の歴史をテーマにしたパネルがあり、海外や日本ではキリシタン史の中で何が注目されているか大変勉強になりました。また、自分の発表で扱った山岳信仰や修験道をテーマにしたパネルにも参加しましたが、今回の参加者はほとんど海外で研究を行っている先生達でしたので、最近このテーマが海外の大学で注目されていることがわかりました。日本の中世史をテーマにしたパネルも多くて、そこにも海外の研究者と日本の研究者も多かったことに気がつきました。

ベルギーでの発表会が終わってからポルトガルやスペインに資料調査に参りました。そこで、2年前から扱っている研究テーマに関する資料を撮影したりしました。そして、日本に帰ってからその情報を整理した上で、発表会での成果や今後の進め方について指導教官の演習で発表する予定です。なお、現在ヨーロッパで発表した内容の一部をまとめて基督教研究会の査読付きジャーナルのために研究ノートを執筆しました。審査の結果はいまだ発表されていません。さらに、後期の終わり頃に EAJJS の内容を英語でまとめて Japan Review のような海外で多くの研究者に読まれている英語のジャーナルに原稿を送る予定です。